

令和6年度新興感染症等対応訓練実施報告書

広島県健康福祉局健康危機管理課
(広島県感染症・疾病管理センター)

I 要旨・目的

医療現場における感染症対応力の向上や地域連携の強化に資するとともに、将来の感染症危機において地域の対策のリーダーシップをとることができる人材を確保するなど、感染症危機への備えをより万全なものとするを目的として、広島県では、今年度新たに医療機関を対象とした想定外にも対応できる実践的な新興感染症等対応訓練を実施した。

当該訓練は、特定の医療機関で実地に行うのではなく、複数の関係機関が参加可能で、顔のみえる関係づくりにも繋がる机上演習とし、実際とのギャップや課題がより明らかになるよう、シナリオを模擬患者役以外の参加者には伝えない形式（ブラインド訓練）により実施した。

今回、次年度以降の効果的・効率的な訓練の実施に向けて、ブラインド訓練参加者へのアンケート結果等を取りまとめ、考察を行ったので報告する。

II 現状・背景

新型コロナウイルス感染症への対応では、感染症指定医療機関以外の基幹病院や地域の医療機関においても診療等が必要となったものの、診療や院内感染対策等が行える人材が不足しており、診療体制の立上げに時間を要した。これらの教訓から、多様なシナリオや実施主体による訓練の実施を通じ

て、平時の備えについて不断の点検・改善を行っておくことが極めて重要となっている。特に、医療機関においては、いつ、どんな感染症の患者が来ても、極力、医療従事者や周囲の患者が濃厚接触者にならないような感染対策を備えておくとともに、患者の重症度等に応じて適切な医療が提供されるよう、地域の医療連携を強化しておく必要があり、広島県感染症予防計画（令和6年3月改定）や広島県新型インフルエンザ等対策行動計画（令和7年3月改定）においても、新興感染症等へ対応するための実践的な訓練実施を平時における重要な課題として位置付けている。

III 訓練の概要

ブラインド訓練を先駆的に実施し、そのノウハウや多様なシナリオを有する神奈川県川崎市の全面協力をいただきながら、ファシリテーター養成研修（プレ訓練）及びブラインド訓練を実施した。

1. ファシリテーター養成研修(プレ訓練)

日時 令和6年10月7日（月）

13：30～15：30

場所 広島県医師会館

講師 川崎市健康安全研究所所長

三崎 貴子 氏

川崎市健康福祉局保健医療政策部
保健政策担当部長・保健所副所長

小泉 祐子 氏

対象 ファシリテーター 6 名（行政医師
（県 3 名・広島市 3 名））

内容 ブラインド訓練に係る講義、ファ
シリテーターの役割、模擬訓練の
実施、振り返り

ファシリテーターは、ブラインド訓練に
おいて、医療機関グループ（計 6 グループ）
に受診する模擬患者役や担当グループの先
導役として、各グループに 1 名配置するも
ので、将来の感染症危機において地域の対
策のリーダーシップをとることができる人
材であり、また、ブラインド訓練を二次保健
医療圏域単位の実施に拡大した際の中心と
なる行政医師 6 名を選定した。

2. ブラインド訓練

日時 令和 6 年 11 月 2 日（土）
14：30～16：30

場所 広島県医師会館

共催 広島県医師会

協力 広島市、広島県看護協会

講師 川崎市健康安全研究所所長

三崎 貴子 氏

川崎市健康福祉局保健医療政策部

保健政策担当部長・保健所副所長

小泉 祐子 氏

総括・講評

川崎市健康安全研究所参与

岡部 信彦 氏

参加 57 名

医療機関（感染症指定医療機関(3
機関)、感染症協力医療機関※(8 機
関)、その他 (3 機関)) の医師、看
護師、臨床検査技師等 25 名※

※ 地域の感染症医療を補う機関とし
て県独自に定めた医療機関

保健所等 16 名（県(6 名)、保健所
設置市(10 名)）

地方衛生研究所（県保健環境セン
ター） 3 名

ファシリテーター（上記 1） 6 名

県本庁 6 名

県医師会 1 名

内容 シナリオを一切明かさず、医療機
関、保健所などによる臨機応変な
その場の判断や、関係機関同士の
連携を検証する訓練

(1) 講義

最初に、訓練の意義やリスクマネ
ジメントの重要性について講義を行
うとともに、訓練の進行方法につい
て説明した。



(2) 訓練

- ・ 医療機関 6 グループ（救急病院(外
来・入院・重症化対応(3))、病院(外
来・入院対応(2))、診療所(外来対応
(1))、保健所 2 グループ（各 3 グル
ープを管轄）、本庁感染症担当 1 グ
ループ、地方衛生研究所 1 グループ
をつくり、概ね 1 グループ 5～6 人
とした。
- ・ グループごとに司会、発表者、記録
者の役割を決めて、前半 15 分、後半
15 分の机上訓練を実施した。

- ・ 各グループの進行役としてファシリテーター1名、補佐1名を配置した。
- ・ ペットボトルを患者に見立て、マスクングした患者情報を記載したカードとともに、医療機関グループに配付し、患者情報は医療機関グループからの質問に応じてファシリテーターが順次開示した。
- ・ 訓練中の他グループへの連絡方法は、各グループに1台ずつ用意した携帯電話のみとし、予め各グループに連絡先一覧表を配布した。
- ・ 各グループは、患者情報等をもとにリスクアセスメントを行いながら、「原因の特定」、「広域事例への対応」、「重症例への対応」、「感染対策」等を実施するとともに、前半及び後半の訓練終了時にはグループごとに経過発表を行い、他グループの状況を共有した。
- ・ 後半の経過発表後には、グループごとに課題を抽出し、改善策を検討した上で、自己検証結果を発表した。
- ・ なお、緊急時に要点を絞った報告・情報共有が実践されるよう、各発表時間は1分間を厳守させた。
- ・ 本訓練は公開で行い、事前に県議会への報告や報道機関への資料提供を行った。実際に複数の報道機関から取材の申込があったが、訓練当日は大雨に伴う交通遮断等により取材はなく、報道されなかった。



(3) 総括・講評

- ・ グループ発表の際、時間を守り発表できているところが良かった。医療機関の患者への対応も良かった。
- ・ 訓練で出た課題を明確にすることで、各職場での明日からの対応につながる。



IV アンケート結果

訓練終了後に、別紙アンケート調査を実施し、プレーヤー（グループ員）による対応の自己評価やシナリオを把握しているファシリテーターによる担当グループの対応の評価を、5段階の採点方式（プレーヤー（グループ員）：1点「できなかった」－5点「できた」、ファシリテーター：1点「できていなかった」－5点「できていた」）で回答いただくとともに、自所属や地域における課題等についても自由記載いただいた。

1. プレーヤー（グループ員）による自己評価

42名中31名（回答率：73.8%、医師（6名）、看護師（15名）、臨床検査技師（1名）、行政職員（7名）、その他（2名））から回答を得た。回答者のグループ別の内訳は、救急病院3グループ11名、病院2グループ8名、診療所1グループ4名、行政4グループ8名であった。

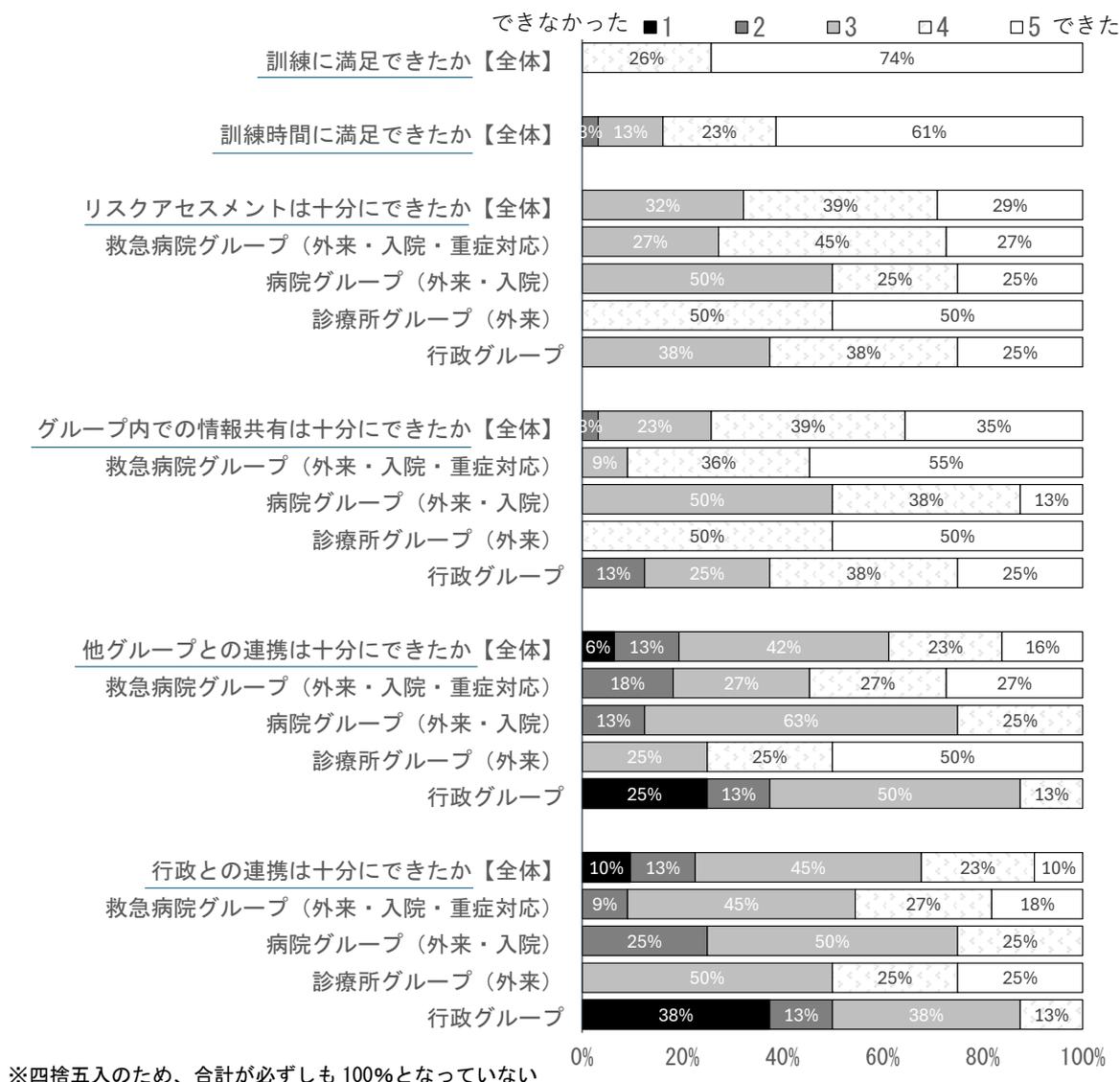


図1 プレーヤー（グループ員）による自己評価結果

「訓練に満足できたか」については、回答者全員が4点以上、「訓練時間に満足できたか」については、4点以上の回答が84%を占めた。また、「訓練の時期は妥当だったか」については、3点という回答が58%、4点以上の回答が42%であった。

「リスクアセスメントは十分にできたか」について、4点以上の回答が全体で68%を占めていたが、病院グループ（外来・入院）では50%に留まった。

「グループ内での情報共有は十分にで

きたか」について、4点以上の回答が全体で74%を占めていたが、病院グループ（外来・入院）では51%に留まった。

「他グループとの連携は十分にできたか」について、3点以下の回答が全体で61%を占め、特に行政グループで88%、病院グループ（外来・入院）で76%と高かった。

「行政との連携は十分にできたか」について、3点以下の回答が全体で68%を占め、特に行政グループで88%、

病院グループ（外来・入院）で75%と高かった。

また、「自所属や地域における課題」について、16名21件の自由記載による回答があり、その内訳は「関係機関との連携に関すること」が11名13件（62%）、「自施設内の情報共有に関すること」が4名4件（19%）、「訓練の必要性に関すること」が4名4件（19%）であった。

さらに、「今回の訓練の改善すべき点」について、7名7件の自由記載による回答があり、その内訳は「シナリオに関すること」が3件、「グループ分けに関すること」が2件、「運営に関すること」が2件であった。

表1 今回の訓練の改善すべき点

シナリオに関すること（3件）
・外注検査の要素も追加すべき
・検体搬送や検査結果判明までの時間も考慮すべき
・院内のベッドコントロールの要素も追加すべき
グループ分けに関すること（2件）
・行政職員は行政グループに入れるべき
・同じ職場同士ではなく分散してもよかった
運営に関すること（2件）
・参加者全員による質疑応答の時間がほしかった
・保健所グループには、もう1台電話を追加すべき

2. ファシリテーターによる担当グループの評価

6名中5名（回答率：83.3%、行政医師（5名））から回答を得た。

「リスクアセスメントは十分にできていたか」、「グループ内での情報共有は十分にできていたか」、「他グループとの連携は十分にできていたか」、「行政との連携は十分にできていたか」ごとに、回答者の評価点の平均を算出した結果、「リスクアセスメントは十分にできていたか」及び「グループ内での情報共有は十分にできていたか」については4点以上、「他グループとの連携は十分にできていたか」及び「行政との連携は十分にできていたか」については4点未満となり、図2に示すとおり、「ファシリテーターによる担当グループの評価」と「プレーヤー（グループ員）による自己評価」に大きな差はなかった。各評価項目の評価点は、リスクアセスメントやグループ内の情報共有では評価が高く、他グループや行政との連携では評価がやや低いという傾向があった。

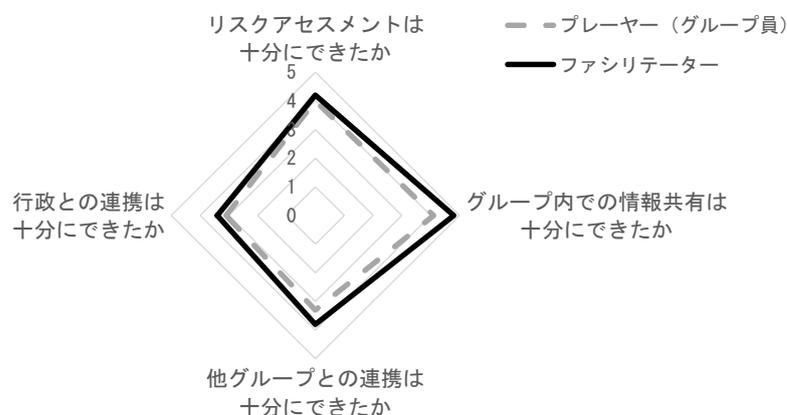


図2 プレーヤー（グループ員）とファシリテーターによる評価の比較

また、「今回の訓練の改善すべき点」について、3名3件の自由記載による回答があり、その内訳は「シナリオに関すること」が2件、「運営に関すること」が1件であった。

表2 今回の訓練の改善すべき点

シナリオに関すること (2件)
・介護施設との連携の要素も追加すべき
・県と保健所設置市の体制の違いを追加すべき
運営に関すること (1件)
・次回もファシリテーター補助が必要

V 考察・まとめ

本県において、新興感染症等対応のブラインド訓練は、初めての開催であったが、これまで先駆的に実施してきた神奈川県川崎市の全面協力のもと、県内ほぼ全域の感染症指定・協力医療機関の医療従事者や行政機関関係者の参加があり、参加者からその内容について非常に高い満足度を得ることができた。

医療機関グループにおいては、患者(ファシリテーター)から疫学情報を入手しつつ、検査対応を行い、「原因を特定」とともに、入院適応、個室管理、院内の消毒等の「感染対策」や、自グループでは対応できない症例の他グループへの紹介等、「重症例への対応」も的確に実施されており、これらのことが、「リスクアセスメントは十分にできた」や「グループ内での情報共有は十分にできた」との高い自己評価につながったものと考えられる。

一方で、医療機関グループによっては、保健所グループへの連絡のタイミングに迷う場面が見受けられ、特に病院グループにおいては、診療所グループからの患者の受入れ依頼や重症例を救急病院グループへ転院させる等、他グループとの連携機会が多く、

保健所グループへの連絡が遅れ、「行政との連携は十分にできなかった」との低い自己評価結果になったと推察される。

行政としては、「広域事例への対応」として、集団発生情報をできる限り早期に入手し、医師会を通じて地域の医療機関と共有することにより、先手の対策を実施することが重要であり、医療機関と保健所の間でお互いの事情を共有し、情報共有のタイミングのすり合わせを行うことができるブラインド訓練は、非常に有益である。

また、本訓練は、グループでの対応時間を前後半それぞれ15分間に限定するとともに、グループ発表についても1分間を厳守させることにより、緊急時の要点を押さえた話し方や聞き方の習熟にも貢献することができた。

さらに、アンケート調査において、「所属や地域における課題」として、「関係機関との連携に関すること」が回答の約6割を占めており、今回のブラインド訓練は、まさに、この課題を解決するものとして、将来的には、ファシリテーターを担うことができる人材を増やし、「改善すべき点」に挙がっていた「ベッドコントロール」や「介護施設との連携」の要素も追加したシナリオを用意しながら、地域(二次医療圏域)単位で開催し、より地域の実情に応じた連携のためのルールづくりにもつながる訓練に発展させていくことが望まれる。

今後も、本ブラインド訓練を、広島県感染症予防計画や広島県新型インフルエンザ等対策行動計画に定める「新興感染症等へ対応するための実践的な訓練」として位置付けて継続実施し、医療現場における感染症対応力の向上や地域連携の強化に資すると

ともに、将来の感染症危機において地域の対策のリーダーシップをとることができる人材を確保していきたい。

VI 謝辞

今回の訓練について全面協力いただいた川崎市健康安全研究所 三崎貴子所長及び川崎市健康福祉局保健医療政策部 小泉祐子保健政策担当部長・保健所副所長、総括・講評をいただいた川崎市健康安全所 岡部信彦参与には、この場を借りて、深く感謝いたします。

県内初 県内11の感染症指定・協力医療機関と保健所から70名が参加 新興感染症に備えた実践訓練を実施します

日時:11/2(土)13:30～ 場所:広島県医師会館(広島市東区)

1 要旨

感染症危機への備えをより万全なものとするため、多様なシナリオや実施主体による訓練の実施を通じて、平時の備えについて不断の点検・改善を行うことが極めて重要となっています。

このため、今年度から新たに、医療機関を対象とした、想定外にも対応できる実践的な新興感染症等対応訓練を実施します。

2 現状・背景

- 新型コロナウイルス感染症への対応では、想定外の出来事であり、医療提供体制がすぐには立ち上がりませんでした。
- 医療機関においては、いつ、どんな感染症の患者が来ても、極力、医療従事者や周囲の患者が濃厚接触者にならないような感染対策を備えておくとともに、患者の重症度等に応じて適切な医療が提供されるよう、地域の医療連携を強化する必要があります。

2 概要

(1) 実施内容

- 県内11の感染症指定・協力医療機関及び保健所等から70名程度が参加し、感染症発生時を想定した机上訓練(ブラインド訓練[※])を実施します。(訓練イメージは別紙参照)

※ブラインド訓練とは、疾患名を含む患者想定やシナリオを参加者には知らせず、現実に近い形で対応・課題抽出する訓練です。

- 本訓練は、広島県感染症予防計画や今年度改定予定の広島県新型インフルエンザ等対策行動計画に基づき、医療機関や保健所の健康危機管理体制の強化を目的に実施します。

(2) 実施日時

令和6年11月2日(土)13時30分～15時30分

(3) 場所

広島県医師会館201会議室(広島市東区二葉の里三丁目2番3号)

(4) 実施主体

広島県(主催)、広島県医師会(共催)、広島市(協力)、広島県看護協会(協力)

3 講師等

アドバイザー 川崎市健康安全研究所所長 三崎 貴子 氏
川崎市健康福祉局保健医療政策部 保健政策担当部長・保健所副所長 小泉 祐子 氏
総括・講評 川崎市健康安全研究所参与 岡部 信彦 氏[※]

[※]前川崎市健康安全研究所所長で、国立感染症研究所感染症情報センター長、厚生労働省新型コロナウイルス感染症対策アドバイザーボード構成員、新型インフルエンザ等対策閣僚会議新型インフルエンザ等対策有識者会議・会長代理(兼)新型コロナウイルス感染症対策分科会委員などを歴任された感染症の専門家。

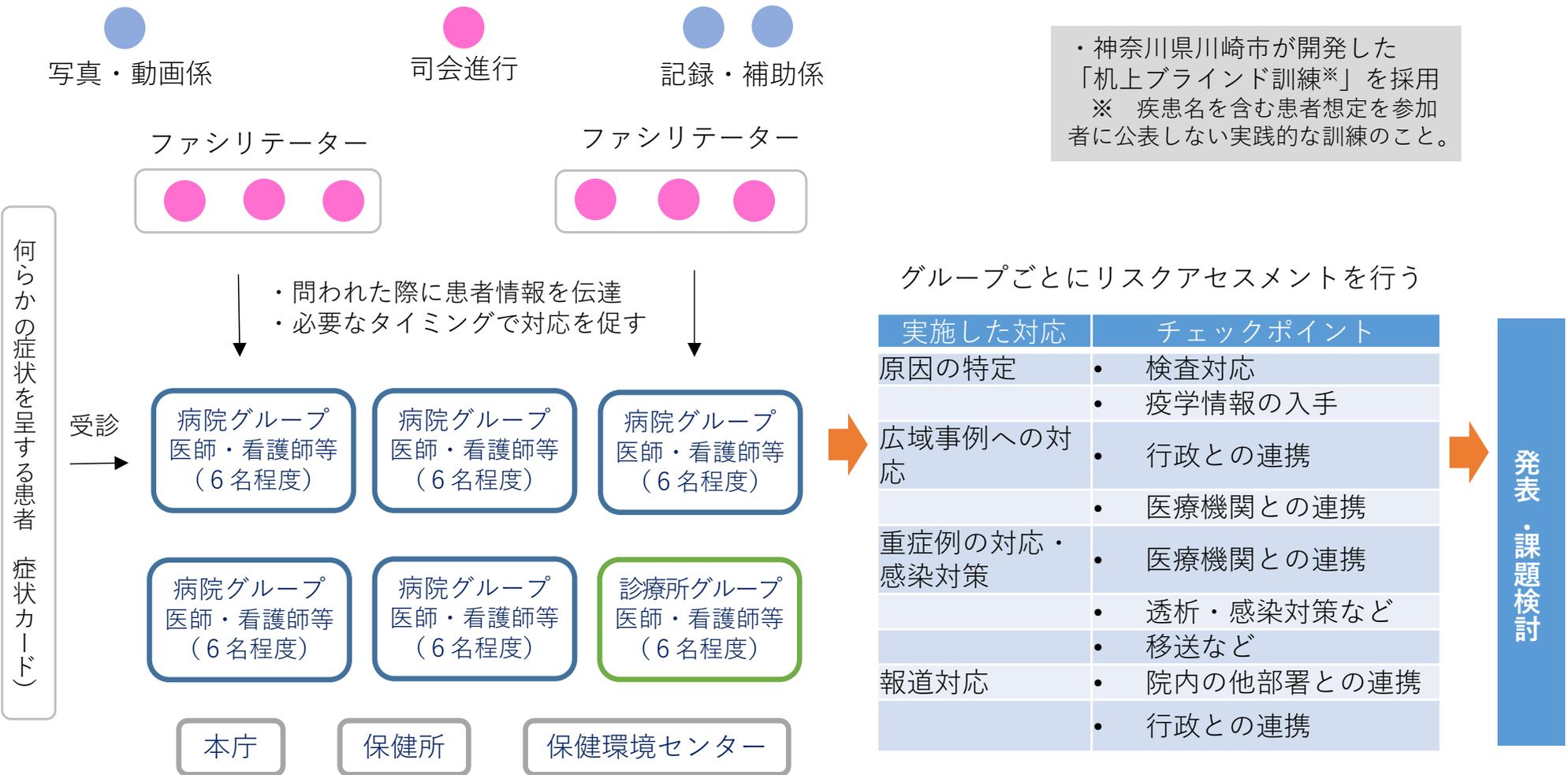
4 その他

- 会場での取材を希望する社は、10月31日(木)12時までに健康危機管理課まで御連絡ください。(連絡先:082-513-3068 健康危機管理課感染症管理グループ 児玉、山内)
- 資料は当日配付します。
- ブラインド訓練のため、事前に訓練内容をお知らせしていません。
- 一般の方は参加できません。

訓練の目的

- 感染症危機への備えをより万全なものとするため、**多様なシナリオや実施主体による訓練**の実施を通じて、**平時の備えについて不断の点検・改善**を行うことが極めて重要となっている。
- 令和5年度に、国において感染症危機管理対応訓練が再開されたことを踏まえ、広島県においても**関係機関の連携強化につながり、実践的かつ継続的な訓練**を今年度から**新たに導入**する。

訓練の内容（イメージ）



訓練上の設定（ルール）

		外来		入院		重症化対応		保健所 管轄	TEL
		小児	大人	小児	大人	小児	大人		
A	広島救急病院	○	○	○	○	○	○	広島中 保健所	XXX-XXXX-XXXX
B	広島総合病院	○	○	○	○	○	○	広島北 保健所	XXX-XXXX-XXXX
C	広島救急センター	○	○	○	○	○	○	広島中 保健所	XXX-XXXX-XXXX
D	備北市民病院	○	○	○	○	—	—	広島北 保健所	XXX-XXXX-XXXX
E	備後市民病院	○	○	○	○	—	—	広島中 保健所	XXX-XXXX-XXXX
F	広島医療クリニック	○	○	—	—	—	—	広島北 保健所	XXX-XXXX-XXXX
	本庁 広島中保健所 広島北保健所 保健環境センター（地衛研）	XXX-XXXX-XXXX（本庁） XXX-XXXX-XXXX（中保健所） XXX-XXXX-XXXX（北保健所） XXX-XXXX-XXXX（保健環境センター）							

令和6年度新興感染症等対応訓練アンケート（プレーヤー用）

[通常ページへ戻る](#)

このアンケート調査は、標記の訓練に御参加された方を対象としたアンケートです。

調査によって得られた情報は今後の訓練実施に係る検討資料として利用させていただきます。

なお、本調査は一部、個人を直接特定できる情報を使用いたしますが、目的外利用をすることはなく「個人情報保護法」などの関連法規に則り、個人情報の保護に努めます。

※アンケートフォームは、ブラウザのクッキー(Cookie)を利用しています。(Cookie対応のブラウザでないとは動作しません) お問い合わせフォームを開いてから60分を超えた場合、内容の送信ができなくなりますので、もし送信までに時間がかかる際には、事前にメモ帳やワードなどで文章を作成してから問合せフォームに貼り付けてください。

Q1：所属機関を記載してください。（必須）

Q2：氏名を記載してください。（必須）

Q3：メールアドレスを記載してください。（必須）

Q4：所属施設の分類についてお伺いします。（必須）

該当する所属施設の分類を選択してください。

- 病院
- クリニック・診療所
- 行政機関
- その他

Q5：職種等についてお伺いします。（必須）

該当する職種を選択してください。

- 医師
- 看護師
- 薬剤師
- 臨床検査技師
- 行政関係職
- その他

Q6：担当したグループについてお伺いします。（必須）

担当したグループを選択してください。

- Aグループ（広島救急病院）
- Bグループ（広島総合病院）
- Cグループ（広島救急センター）
- Dグループ（備北市民病院）
- Eグループ（備後市民病院）
- Fグループ（広島医療クリニック）
- Gグループ（保健環境センター）
- H・Iグループ（保健所）
- Jグループ（本庁）

Q7：今回の訓練は満足できるものでしたか。（必須）

5段階評価（1「できなかった」－5「できた」）をしてください。

- 1
- 2
- 3
- 4
- 5

Q8：訓練の時期は妥当でしたか。（必須）

5段階評価（1「早すぎた」－5「遅すぎた」）をしてください。

- 1
- 2
- 3

- 4
- 5

Q9：担当したグループについて、リスクアセスメントはできましたか。（必須）

5段階評価（1「できなかった」－5「できた」）をしてください。

- 1
- 2
- 3
- 4
- 5

Q10：グループ内での情報の収集、共有は十分でしたか。（必須）

5段階評価（1「できなかった」－5「できた」）をしてください。

- 1
- 2
- 3
- 4
- 5

Q11：他グループとの連携（医療機関、保健所等）はうまくいきましたか。（必須）

5段階評価（1「できなかった」－5「できた」）をしてください。

- 1
- 2
- 3
- 4
- 5

Q12：行政機関との連携はうまくいきましたか。（必須）

5段階評価（1「できなかった」－5「できた」）をしてください。

- 1
- 2
- 3
- 4
- 5

Q13：訓練を実施した時間は適当でしたか。（必須）

5段階評価（1「適当ではなかった」－5「適当だった」）をしてください。

- 1
- 2
- 3
- 4
- 5

Q14：本訓練で感じた施設や地域における課題を記載してください。

Q15：今回の訓練で改善したほうがいい点等があれば記載してください。

Q16：その他意見等があれば自由に記載してください。

確認する

令和6年度新興感染症等対応訓練アンケート（ファシリテーター用）

[通常ページへ戻る](#)

このアンケート調査は、標記の訓練にファシリテーターとして御参加された方を対象としたアンケートです。
調査によって得られた情報は今後の訓練の実施に係る検討資料として利用させていただきます。

なお、本調査は一部、個人を直接特定できる情報を使用いたしますが、目的外利用をすることはなく「個人情報保護法」などの関連法規に則り、個人情報の保護に努めます。
※アンケートフォームは、ブラウザのクッキー(Cookie)を利用しています。(Cookie対応のブラウザでないとは動作しません) お問い合わせフォームを開いてから60分を超えた場合、内容の送信ができなくなりますので、もし送信までに時間がかかる際には、事前にメモ帳やワードなどで文章を作成してから問合せフォームに貼り付けてください。

Q1：所属機関を記載してください。（必須）

Q2：氏名を記載してください。（必須）

Q3：メールアドレスを記載してください。（必須）

Q4：所属施設の分類についてお伺いします。（必須）

該当する所属施設の分類を選択してください。

- 病院
- クリニック・診療所
- 行政機関
- その他

Q5：職種等についてお伺いします。（必須）

該当する職種を選択してください。

- 医師
- 看護師
- 薬剤師
- 臨床検査技師
- その他

Q6：担当したグループについてお伺いします。（必須）

担当したグループを選択してください。

- Aグループ（広島救急病院）
- Bグループ（広島総合病院）
- Cグループ（広島救急センター）
- Dグループ（備北市民病院）
- Eグループ（備後市民病院）
- Fグループ（広島医療クリニック）

Q7：担当したグループについて、リスクアセスメントはできていましたか。（必須）

5段階評価（1「できていなかった」－5「できていた」）をしていただき、その理由を具体的に記載してください。

以下のように回答願います。

評価：5

理由：○○○○○

Q8：担当グループ内での情報の収集、共有は十分にできましたか。（必須）

5段階評価（1「できていなかった」－5「できていた」）をしていただき、その理由を具体的に記載してください。

以下のように回答願います。

評価：5

理由：○○○○○○

Q9：他グループ施設（医療機関、保健所等）との連携はうまくできていましたか。

5段階評価（1「できていなかった」－5「できていた」）をしていただき、その理由を具体的に記載してください。

以下のように回答願います。

評価：5

理由：○○○○○○

Q10：行政機関との連携はうまくできていましたか。（必須）

5段階評価（1「できていなかった」－5「できていた」）をしていただき、その理由を具体的に記載してください。

以下のように回答願います。

評価：5

理由：○○○○○○

Q11：訓練を実施した時間は適当でしたか。（必須）

5段階評価（1「適当ではなかった」－5「適当だった」）をしてください。

- 1
- 2
- 3
- 4
- 5

Q12：本訓練で感じた施設や地域における課題を記載してください。

Q13：今回の訓練で改善したほうが良い点等があれば記載してください。

Q14：その他意見等があれば自由に記載してください。

確認する